

「第7回経営諮問委員会（アドバイザリーボード）」の概要

第7回経営諮問委員会（以下、「アドバイザリーボード」という。）の概要につきましては、以下のとおりであります。

当社側から、平成22年3月期第2四半期決算の概要、第2次中期経営計画の進捗状況および地域経済活性化への取り組みについて説明し、その後、委員の皆様方からご意見を頂戴いたしました。

1. 日時

平成21年12月8日（火） 10:30～12:30

2. 場所

紀陽銀行 本店

3. 出席者

【経営諮問委員会委員】 <五十音順、敬称略>

上山 英介 大日本除虫菊株式会社 代表取締役会長
小田 章 財団法人和歌山社会経済研究所 理事長
島 正博 株式会社島精機製作所 代表取締役社長

【紀陽ホールディングス出席者】

片山 博臣 取締役社長（紀陽銀行 取締役頭取）
米坂 享 専務取締役（紀陽銀行 専務取締役）
泉 清映 常務取締役（紀陽銀行 常務取締役）
成田 幸夫 取締役（紀陽銀行 取締役）
玉井 享 監査役（紀陽銀行 監査役）
樋口 勝二 監査役（紀陽銀行 監査役）
増尾 穰 監査役（紀陽銀行 監査役）

【紀陽銀行出席者】

雑賀 均 常務取締役
松岡 靖之 常務取締役
上野 隆司 取締役
森川 保彦 取締役
北山 隆一 取締役

営業推進本部 ピクシス営業部
部長 田辺 治

【事務局】

紀陽ホールディングス グループ企画部

グループ統括リーダー 堀切 久壽、グループリーダー 金谷 崇史

グループサブリーダー 橋本 信貴

4. 片山社長挨拶要旨

- 平成 21 年 4 月から新たに「第 2 次中期経営計画」をスタートし、「お客様との接点の強化」と「お取引先数の増加」を図ることで「着実な成長を遂げる」ことを主要テーマとして取り組んでおります。紀陽銀行が地域のお客様により強く支持される姿を目指すなかでは、本業においてお客様のお役に立つと同時に、様々な活動を通じて地域の経済活性化に貢献することが重要と認識しております。

また、このような先行き不透明な経済環境の時にこそ、紀陽銀行でなければ果たせない、地元地域で必要とされる役割もあるのではないかと考えております。

委員の皆様にもお力添えをいただきながら、グループ全体で課題に取り組み、計画を実践して参りますので、忌憚のないご意見、ご提言をいただきたく存じます。

5. 弊社からの説明要旨

紀陽ホールディングス・グループ企画部および紀陽銀行・営業推進本部より以下の内容について説明いたしました。

- (1) 平成 22 年 3 月期第 2 四半期決算概要、第 2 次中期経営計画の進捗状況について
- (2) 地域経済活性化の取り組みについて

過去のアドバイザリーボードでのご提言をふまえ、以下のとおり内容を説明

① 地元における農商工連携への取り組み

ア. 和歌山県との連携による農商工連携ファンドの活用に向けた取り組みについて説明

- 平成 21 年 9 月 30 日に事業を開始した「わかやま農商工連携ファンド」に対し、地元金融機関として一部を出資している。
- 同ファンドについて広く周知、活用を促すため、紀陽銀行主催による「和歌山県農商工連携促進セミナー」を 11 月に開催。

② 地元企業経営者の高齢化に対応した事業承継サポートの取り組み、ならびに高齢者に対する資産管理業務等、高齢者のサポートを意識したサービスの提供

ア. 地元中小企業に対する事業承継サポートの取り組みについて説明

- 紀陽銀行主催により「事業承継セミナー」を開催。
- 後継者育成支援のための定例研究会の実施。

イ. 相続対策を中心とした高齢層向け相談業務への取り組みについて説明。

- 遺言信託業務強化に取り組んでおり、お客様向けに「遺言信託セミナー」を定期的に開催。
- 和歌山市内の「紀陽お城の前の相談室」において、相続や贈与、節税等の個別相談会を実施。また、営業店担当者との連携により、本部スタッフが適宜お客様を訪問して対応。

- 「紀陽お城の前の相談室」の他、和歌山県内全域で「年金相談会」を開催し、プレ年金受給層のニーズに対応。
- ③地域のなかにおける公教育や家庭教育、社会人教育に寄与する活動への取り組み
 - ア. 県内各機関との連携が強化されるなかで、青少年層の教育活動に参画する機会を増やしていることを説明。
 - 地元中学校への出張研修実施。
 - 小学生向けの金融セミナー開催。
 - 地元大学における、地元企業共同による寄付講座への参画。

6. 意見交換

委員の皆様から以下のご意見、ご提言をいただきました。

<業績ならびに第2次中期経営計画の進捗について>

- ・ 業績については、堅実にまた着々と前進しているという印象を抱く。現在は経済社会全体が「低金利」により支えられている状況にあり、銀行の業績がその影響を受けることはある程度やむを得ないと理解している。
- ・ 厳しい経済情勢のなかで不良債権あるいは与信費用が減少傾向にあることは、紀陽銀行が地元企業に対し積極的に融資取組をおこなないながらでの事であり、喜ばしい事と考えている。

<地域貢献のあり方について>

- ・ 地域経済の活性化に向けて多面的に取り組んでいる点は評価している。また一方では、銀行の一番の社会貢献は本業にあると言え、多面的に活動を拡大することはコスト増につながる面もある。本業と多面的活動のバランスを保つことは難しいと思われるが、引き続き積極的に取り組んでいただきたい。
- ・ 銀行も資金供給を通じて地域を支えるのみでなく、「人」の力を通じて地域や経済を支えていくべき時代になっている。そのためにも、地元で入手できる限られた情報やネットを通じた情報のみでなく、東京をはじめとして多様な人材・情報が集まる場所で生きた情報に触れ、刺激を得て感性を磨くことは有意義なことである。
- ・ 「確かな見目」と「こだわり」が文化水準の向上に役立つのと同様に、人材のレベル向上にも「こだわり」をもつための感性を磨くことが重要。技術を生かせる感性と、コストへのこだわりが新たなビジネスチャンスを生むと言えるので、銀行の人材にも様々な面で感性を磨く努力をしてもらいたい。

<今後のビジョン・戦略について>

- ・ 現在目の前にあるものについて考える事も重要であるが、将来に向かってのビジョンとして夢のある姿を打ち出す必要がある。地元経済界のトップが、求心力のある高い目標やビジョンを打ち出すことが望まれる。

片山社長には、紀陽フィナンシャルグループのトップとして、また和歌山商工会議所のトップとして、地元で夢を与えるビジョンを描き、地元を牽引していただきたい。

- ・ 紀陽銀行の「大阪府南部にも和歌山県と同様に地元化できるよう力を注ぐ」というエリア戦略についても、前向きな良いビジョンと評価している。今後のエリア拡大に向けた統合等の経営戦略はどうか。

<回答>

銀行の統合の難しさを身をもって知っているだけに、可能性を排除はしないが、難しい問題であるとしか答えられない。紀陽銀行と和歌山銀行の合併は極めてスムーズに進んだ事例であったが、それでも振り返るとやはり大変だった。一般論として、銀行の統合には難しい問題が数多くあるという認識をもっている。

「大阪府南部の地元化」については、当行が和歌山でやっている事を大阪府南部でも実現する事でお役に立ちたい、という考えを打ち出したもの。

和歌山県、大阪府を問わず、地元地域において志を同じくする方々と協力しながら、銀行の本業をはじめとする様々な活動を通じて、しっかりと貢献していきたい。

<返済猶予制度について>

- ・ 借り手にとっては有利な点も多い制度であるが、貸し手側金融機関には複雑な問題も多いと察する。
- ・ 企業を経営する者にとっては「借りたものは返す」のが当然であり、根底の部分にある考え方を互いに損なわない形で取引先企業をサポートして欲しい。紀陽銀行が返済猶予を実施した件数だけでなく、取り組みの実態を客観的に捉えて評価される様、実のある取り組みをお願いしたい。

<回答>

(片山社長が)自ら新たに設置した委員会の委員長となり、体制整備に取り組んでいる。これまでの経緯を見るなかでは、事業性取引のお客様については普段のお取引のなかでのサポートを進めてきており、新たなご相談が急増することもないと予想している。ただし、住宅ローンのお客様については、ご事情の急変等でのご相談も多数あると思われる。状況をみながら、しっかりと対応していく。

今回のご意見、ご提言を踏まえ、当社としましては、「金融円滑化法」への対応にとどまらず、本部が有する経営改善サポートのノウハウを営業店に幅広く浸透させ、営業店の経営改善サポート機能を高めるための体制整備に注力していく方針を再度確認いたしました。

以 上